

欧州委員会のバイオエネルギー提案 6つの致命的な欠陥

欧州委員会による再生可能エネルギー指令（RED）の見直し草案が、6月16日にリークされました。この案は、EUのバイオエネルギー規則がもたらす気候や生物多様性への深刻な脅威を何ら解決するものではありません。NGOや科学者たちは、最終文書（7月14日予定）ではグリーンウォッシュを超え、そもそもの見直しのきっかけとなった問題に取り組むことを求めています。

草案が取り組まなかったバイオエネルギーの問題点

エネルギーのために木や作物を燃やすことは、気候に悪影響を及ぼします。木を燃やすと、どれだけ持続可能な方法で調達したとしても、化石燃料を燃やすよりも多くの二酸化炭素を排出します。木を燃やすと環境はすぐに汚染されますが、木が再び育つには何十年もかかります。これでは、急激な気候変動を食い止めることはできません。また、土地をバイオ燃料やエネルギー作物専用を使うことは、気候変動の観点からは意味がありません。

野生生物や土壌にも悪影響を及ぼします。EUのバイオエネルギー規則は、本来ならば森林に放置される「低質材」を市場に提供しています。これにより栄養分が失われ、土壌が炭素を蓄える能力が低下します。また、腐った古い木や枯れた木に住む生物の住処を破壊してしまいます。古い自然林の中には、木材としての価値がないという理由だけで生き残ってきたものもあります。しかし今では、バイオエネルギーのために森林が破壊され、場合によってはモノカルチャーのプランテーションに置き換えられています。

健康にも悪い。エネルギーのために木材を燃やすことは、何十万人もの命を奪う浮遊粒子状物質汚染の最大の原因であり、EUでは毎年何十万人もの人々がこの汚染で命を奪われています。

欠陥のある草案では何も変わらない

欠陥1: 草案は、加盟国が気候に悪影響を与える原料を引き続き支援することを認めているため、気候に害を与えるバイオエネルギーを阻止することはできない。

欠陥2: この草案には、加盟国が「市場価値の高い幹材」のエネルギー利用を「促進しないようにする」という拘束力のない文言が含まれている。森林バイオエネルギー産業は、主に市場価値は低い、生物多様性や炭素の価値が高い木材を燃やしているため、これでは何も変わらない。

欠陥3: 原生林、多様性の高い森林、泥炭地などの調達禁止地域が記載されている。しかし、EUに残る3%の原生林からはほとんどバイオマスが採取されないため、残りの97%は依然として調達可能であり、何の変化ももたらさない。

欠陥 4: 現在、EU の施設では、20 メガワット以上の発電所で使用する木材に「持続可能性基準」を適用しなければならないが、草案ではこの基準を 5 メガワット以上の発電所に引き下げている。この基準は、欧州委員会の科学者が数十年にわたって排出量を増加させると指摘している原料を除外しておらず、最も悪質な森林破壊を阻止するにはあまりにも弱いものである。

欠陥 5: この草案は、木材の燃焼量やそれによって発生する浮遊粒子状物質による大気汚染を削減するものではない。EU が大気汚染の影響に対処していないことが、規制精査委員会によって RED の影響評価が却下された主な理由であるにもかかわらず、である。

欠陥 6: 今回の草案には、バイオ燃料やバイオガスのための燃料作物の使用に関する追加的な規制がない。さらに、先進的なバイオ燃料のリストを固定せず、それらのバイオ燃料の持続可能性基準も強化していない。

現在の草案は、再生可能エネルギーを適切にグリーン化するのではなく、グリーンウォッシュしているのです。7 月 14 日には新しい RED が発表されるはずですが、現在私たちが目にしているのは、「いつものこと」を「変化」と言い換えているだけの提案です。**EU は、木や農作物を燃やしてエネルギーを得ることへの支援をやめなければなりません。**

(仮訳。文責：WWF ジャパン)

原文はこちらをご確認ください。

https://www.wwf.eu/wwf_news/media_centre/?uNewsID=3849866